

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝



小学1年生対象の「ことばの検査」に関わって

- ・現在、秋田県内で「ことばの検査」を実施している市町村は、大館市、北秋田市、能代市、湯上市、男鹿市、秋田市、仙北市などである。各小学校を会場に、就学時健診または小学校入学後（5月～7月）に実施されている。検査員は地域の通級指導教室担当者を中心に、特別支援教育アドバイザーや特別支援学校の地域支援部の職員が協力している地域もある。
- ・ねらいは、個々の児童の発達状況を把握し、課題に応じた指導・支援ができるようにすることである。検査内容は、身近な物の名前を言ったり、簡単な平仮名を読んだりする課題をとおして、発音、言語理解、ワーキングメモリ、意欲や態度等、様々な角度から児童の様子を観察する。
- ・湯上市の場合は、結果を検査当日の放課後に、小学校の特別支援教育コーディネーターや学級担任に伝えている。特別な配慮が必要と思われる児童が話題になるが、私は入退室の際に自主的に挨拶をした、大きな声で受け答えができた、緊張しながらも笑顔を見せていたなど、児童の良いところも伝えている。すると、日ごろ悩みながら指導している学級担任の表情が明るくなる。ことばの検査は、学級担任の悩みに応えたり、「今の指導で大丈夫だよ」と背中を押したりするねらいもあると感じている。尚、配慮が必要と思われる児童については、学級担任が保護者面談で通級指導教室の利用や心理検査の実施等を勧める場合もある。
- ・配慮を要する子どもへの気付きと、保護者の子ども理解を促進するために、全ての市町村で「法定健診⇒満5歳児健診（相談会）⇒就学時健診⇒ことばの検査」を実施してほしいと願っている。

〈1年生の学級担任からよくある質問〉

Q 鏡文字が見られる子ども、読み書きが定着しない子どもへの指導

A 左右の判別が曖昧だったり、脳が未発達だったりするのでよく見られる。文字を読んだり書いたりする機会や、形あるものを見る・触る・動かすことを繰り返す、左右の方向が認識できると自然に改善される。パズルやブロックなど形を区別できる活動やボール運動やサーキット運動に取り組んだりすることも有効である。

「ぬ」は「めにしっぽがくるりん」と言葉で意味付ける、絵と文字カードを対応させながらゲーム感覚で覚えさせていく、空書き、粘土や紐状の物を使って立体的に文字を作る等、多感覚をフルに活用することも有効である。

Q 集中力が続かない子どもへの指導

A 1年生の場合は、実態差が大きいことを前提に授業を組み立てる。

最初に1時間の流れ、ねらい、ゴールを示す、教科によって授業の型を一定にする、一コマ10分の内容を組み合わせて徐々に長くする、多様な学習活動（静と動のバランス）を組み入れる、多様な学習形態（個人、ペア、グループ）を用意する、できる範囲で個の違いに対応する。

学級の基本的ルールの定着を図る、机上には必要最小限のものだけを置くなど刺激をなるべく遮断する等の環境整備も大切である。



子どもを多面的に捉えよう



「りんごかもしれない」 作/ヨシタケ シンスケ フロンズ新社

あるひ がっこうから かえってくると・・・ テーブルの うえに りんごが おいてあった。もしかしたら これは りんごじゃないのかもしれない。おおきなサクランボの いちぶかもしれない。なかみは ぶどうゼリーなのかもしれない。あるいは むいても むいても かわかもしれない。ほくからみえない はんたいがわは ミカンかもしれない。ひょっとして あかい さかながまるまっているかもしれない・・・・・・。最後はりんごを食べて、「おいしいかもしれない」で終わる。

私たちは、ある一部分だけで「～な子ども」と決め付けていないだろうか。子どもを多面的に評価し、「こんなことができるよ」と良い面をたくさん伝えて、子どもが多様な価値に気付くようにしたい。